# 医師キャリア支援センター

益崎 裕章
副病院長・第二内科長
医師キャリア支援センター長

平成26年から琉球大学医学部附属病院医師キャリア支援センター長を担当させて戴いております。**琉球大学 医学部附属病院職員の皆様・沖縄県の医療関係者の皆様におかれましては倍旧の御指導・御鞭撻を賜りますよう宜しく御願い申し上げます。**

超高齢化社会を迎え、医師の人生にも“生涯持続力”が求められるようになりました。私達を取り巻く医療情報は凄まじい勢いで膨張しており、昔ながらの研修方法や勉強方法ではもはや通用しない時代です。毎年、毎年、膨大な種類の新薬が登場し、医療技術も目まぐるしい進歩を遂げています。御開業の先生方からは“昨今の医学の進歩に追いついていくのは本当に大変で、少し油断するとあっという間に“医療版 浦島太郎”になってしまいます”という悲鳴が寄せられます。“医師になる”ことは“一生涯、勉強を続けていく姿勢と決意”と引き換えに成立します。私の周りにも80歳台、90歳台で立派に現役の医師として活躍なさっている先生が少なくありません。母校、京都大学の大先輩でもある日野原 重明 先生（聖路加国際病院 理事長）は102歳の今も外来診療や病棟回診をこなされ、１日に２～３回の講演のハシゴも日常的です。

生涯にわたって輝き続ける医師であるためには医師になって最初の２～３年間に受ける初期教育が決定的な意味を持ちます。どのような先生からどのような医療教育を受けたか。研修医仲間との切磋琢磨の質を如何に向上できたか。良質の医療を実践するための医療リテラシーの鍛錬ができたか。電子カルテや紹介状の書き方、医療スタッフや患者さん・御家族とのコミュニケーション能力、症例のプレゼンテーション能力、学会発表や論文執筆の能力などをしっかりと身に着けなければ進歩著しい21世紀の医療環境を果敢に生き抜いていくことは不可能です。

初期臨床研修の充実と向上に向けて医師キャリア支援センターは恰好の研鑽の場を提供できると自負しております。御二人の副センター長、**正本 仁 先生（周産母子センター長）と垣花 学先生（麻酔科学 教授）**をはじめ、琉球大学医学部附属病院の各診療領域で大活躍中の輝くセンター・スタッフが愛情をこめて誠心誠意、研修医の皆さんをサポートします。研修上の問題や悩み、進路選択、医師キャリアの構築・ブランド創成など、どのようなことでも気軽に相談して戴きたいと願っております。新しくスタートする臨床研修制度では各専門領域における専門医の取得が非常に大きな意味を持つことになります。沖縄県内の基幹病院の中にも専門医を取得できない病院（専門医不在のために研修指定病院として認定されていない病院）が少なくないことを勘案しますと各専門分野のエキスパート・指導医が揃っている琉大病院における初期臨床研修で得られる様々なメリットは計り知れません。沖縄県内外の医学生の皆さん・医師の皆様が医師キャリア支援センターに関心を寄せて戴き、積極的な御参画・御支援・御指導を賜りますよう宜しく御願い申し」

輝くスタッフ紹介

# 薬剤部

砂 川 智 子

薬剤師

## 少女時代からの夢を叶えてくれた職場で活き活き輝いています！

小学生の頃からの夢であった薬剤師になり10年がたちました。この10年間は、薬剤部業務と並行しながらの社会人大学院への進学（現在、博士課程の３年生ですが、修士課程では研究成果を高く評価していただき、学長賞と金時計をいただきました）、糖尿病療養指導士（CDE）の認定取得、出産、育児、そして仕事復帰もあり、私にとって最高の10年間となりました。

育児休業中も大学院生として講義への出席や学会発表を行えたことが自身のキャリアアップにつながったと感じています。素晴らしいことに、今年度から講義単位の取得方法が変更となり、子育てと並行しながらの単位取得が行いやすくなりました。

現在は、育児のための短時間勤務制度を利用しながらの薬剤部の業務に加えて、CDEの資格を生かした業務に携わりながら日々輝いています。糖尿病ケアチームの一員（医師・看護師・栄養士・薬剤師で構成）として、毎月１回行われている外来患者さんを対象とした糖尿病教室も担当しています。月に一度ですが、患者さんやチームのみんなと会うことが楽しみになっています。

１歳児の子育てに必要な病児保育室（ゆくるーむ）が院内に整備されていることも仕事を続ける上で大きな支えになっています。育児・仕事・大学院生をこなす日々を忙しくも楽しく♪過ごせています。女性としての幸せを味わいながら、すべてを両立できるのは琉大病院の大きな魅力だと感じています。私は琉大病院が大好きです♪感謝・感謝です♪

輝くスタッフ紹介

# 看護部

山 城 美 奈

看護師

## 働きやすい環境が、快適な病棟をつくる

皆様こんにちは。この度HOTLINEで紹介していただくことになりました、第二内科所属３年目になります看護師の山城美奈と申します。

私が第二内科に配属希望したきっかけは、大学４年生の頃に行ったインターンシップでした。いくつかの科を回ったなかでも、特に看護師さんたちの指導が懇切丁寧で優しく、すぐに第二内科を希望したことを昨日のように覚えています。

第二内科では、糖尿病患者様を対象とした糖尿病教育を実施しています。時には回答が困難な質問も受けますが、その度に自ら学習し指導することで患者様・自分自身のスキルアップに繋がり、相互の成長となっています。

また、血液疾患は特性上重症化する患者様が多く、治療をする上で患者様の心身面のストレスは多大なものであるため、普段の表情や会話の中から些細な変化をキャッチし、医療・看護的介入が必要でないかアセスメントすることを日頃から注意して行うよう心がけています。

第二内科の特徴として、益崎教授や糸数師長をはじめ病棟スタッフ全員が心温かくとても優しいです。業務を遂行する上で何か困った時はすぐに先輩ナースや先生方に相談できる雰囲気ができており、多忙な状況下でも丁寧にご指導してくださるので毎日充実して働くことができています。

第二内科病棟目標である、『“この病棟に入院して本当に良かった！”と患者さんに感じて戴ける心安らぐ快適な病棟を創る』を胸に、これからも、常に笑顔で明るく、一生懸命業務に邁進する所存でございます。

輝くスタッフ紹介

# 看護部

大石麻衣子

看護師

## 患者さんと一緒に喜べる！そんな指導を目指して

私は糖尿病療養指導士として、火曜日から金曜日に内科外来で勤務しております。外来では主に糖尿病患者さんの療養指導を担当させていただいています。

療養指導の内容としては、食事療法や運動療法、薬物療法、低血糖、シックデイ、フットケア、インスリン注射、自己血糖測定など多岐にわたります。これらの指導を行う上で一番大切にしていることは、患者さんの生活状況をよく知る、ということです。糖尿病は、自覚症状が乏しく、合併症が恐い病気だと言われています。良好な血糖コントロールを目指すためには、患者さん自身が生活を改善していく必要があります。そのためにも、患者さんの生活を良く知り、生活の中での改善点や方法を、一緒に考え手助けすることが私の役割だと考えています。

私が糖尿病療養指導士として一番やりがいを感じる時は、「患者さんにとって私の指導が役に立った」と思える時です。一緒に考えた改善策で、患者さん自身が生活を変える事が出来、それを患者さんと一緒に喜べる瞬間は、私のモチベーションもあがります。今後も、患者さんへ自信を持ってお話しする事が出来る様、日々患者さんから学び、成長していきたいと思っています。

内科外来には、私を含め糖尿病療養指導士が２人いますので、誰にも相談できない事でも、一人で悩まず、ぜひ気軽に声をかけてきてください。

イベント１

# エコクリーンデー in 上原キャンパス

医学部保健学科成人・がん看護学分野　准教授、特別管理産業廃棄物管理責任者　大湾　知子

上原キャンパスの附属病院と医学部では、毎年、未来の琉球大学学生を迎えよう、という趣旨からオープンキャンパスでのおもてなしを前に教職員と学生による一斉清掃を行い、全国各地からの高校生を迎えております。

“綺麗なキャンパスが好きです！”と題し、経営管理課が中心になり敷地内建物周囲・立体駐車場の環境美化および廃棄物削減を図っております。

７月17日（木）午後３時30分～５時、「エコクリーンデーin上原キャンパス」を掲げ、松下医学部長が挨拶をし、作業の説明を行った後、看護部、事務部、保健学科の学生・院生と教職員、サークルの学生など参加者約200名の情熱で上原キャンパスを綺麗に！明るく！元気に!!清掃作業を行いました。

一般財団法人徳明会よりご寄付いただいた飲み物で水分を補給しながら、非常に暑い日差しの中、帽子をかぶり手袋、竹ぼうきやチリトリで花壇の除草、車輌周辺や排水溝内の枯葉と草木を収集しました。お陰様でゴミは大分減り、本院に来院される方、キャンパスの利用者や訪問者・高校生を気持ち良くお迎えすることが出来ました。ご協力いただきました皆様に心から感謝申し上げます。